

三河商

新鍋田屋 鍋田晃一君

PART
165



青年部とは 出会いとチャンスをもたらるところ



【会社・仕事への思い】

鍋田さんのお店は、江戸時代から続く呉服屋「鍋田屋」から、大正 12 年に曾祖母がのれん分けで設立された「鍋田屋支店」が前身です。その後「新鍋田屋」と名を変え、現在はお父様が代表を務めています。

『自分がお祭り大好き。でも近隣に祭り衣装の扱い店舗が少ない』事から、鍋田さんは平成 10 年、「新鍋田屋」内に新たに「祭衣匠たこー」を立ち上げられました。

たこーという屋号はお名前「ナベタコ(ウ)イチ」からナベを抜いて命名したものだそう。「この屋号を思いついた時は、興奮して眠れなかった」と、設立時の熱い想いを語って頂きました。

【青年部に入会されたきっかけ】

青年部へ入会したのは、平成 13 年、岡崎商工会議所のチャレンジショップに出店している時、歴代会長の多々内文雄先輩に声を掛けられたことがきっかけ。祭り用品を扱っている事をお祭り好きの多々内先輩に面白がられ青年部に誘われたので入会されたそうです。

【思い出に残る青年部活動】

一番の思い出は「商売繁盛戦隊アキンダー」になったこと。某戦隊物の被り物をして、夏祭りや岡崎イオンのイベントなどに参上・活躍しました。「青年部メンバーや一般のお客さんに楽しく笑ってもらえて、ほんとうに楽しかった。」と、笑顔で話してくれました。

鍋田さんはバナナとカレー好きの「アキンダーイエロー」に変身。ちなみに、その時のアキンダーグリーンは伊與田副会長だそうです。(写真下から2枚目)

取材時に、当時は懐かしみながらお店の前で「商売繁盛アキンダー」ポーズで記念撮影をしました。

【趣味など】

趣味は「当然、祭り。祭りはちんちんになるから楽しい。」と言われます。(ちんちんになる＝愛知の方言：非常に熱くなる。血が沸く。大はしゃぎするという感じ)

ご自身が山車を曳いて楽しかった思い出が忘れられず、現在は子どもたちに同じような体験をさせることを楽しんでいるそうです。夜に山車が返ってくる時の情景には今でもちんちんになられるようです。

またメダカや金魚、イモリなどの水生生物の飼育がもう一つの趣味との事。ご自宅に 10 程の水槽にたくさんの水生生物を飼っているそうです。わけてくださるそうなので、金魚とイモリに興味がある方は鍋田さんにご連絡されてはいかがでしょうか。

【青年部とは・・・】

青年部とは、「出会いとチャンスをもたらるところ」。

「仕事の繋がりができた。それまで他市遠方の業者と付き合っていたが、メンバー同士で仕事の繋がりができた。それと気の置けない友人ができた事。それが青年部の魅力と感じます。」と、想いを語って頂きました。



取材担当／
総務委員会
矢野快子、内田浩史
大竹雄介、加藤賢一
高橋進、都筑之泰
松本展和、柴田吉久
鈴木康弘